

公表

## 事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

|                |            |  |            |
|----------------|------------|--|------------|
| ○事業所名          | クローバキッズ西岐阜 |  |            |
| ○保護者評価実施期間     | 7年 2月 1日   |  | ～ 8年 2月 1日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)     |  | (回答者数)     |
| ○従業者評価実施期間     | 7年 2月 1日   |  | ～ 8年 2月 1日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)     |  | (回答者数)     |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 8年 2月 8日   |  |            |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること   | 工夫していることや意識的に行っている取組等  | さらに充実を図るための取組等                                       |
|---|--|--|--|
| 1 | 男性職員が多いので、お出かけの時は、長距離の場所に行ける。<br>職員の風通しが良く、働きやすい職場である。<br>職員が専門的知識と経験のある職員が多く在職しているので、幅広い支援が提供出来ている。 | 未就学児に対応した活動の立案をしている。<br>送迎時の安全性。<br>職員で見守りや支援を行っている。<br>ミーティングや、申し送りノートを活用し、児童に対して気付いた事を共有しやすい環境になっている。              | 保護者との連絡を密にして必ず記録する。<br>利用児童の細かい行動にも目を配りながら、支援を行う。    |
| 2 | アセスメントや個別支援計画に基づいた療育の提供を行っている。<br>保護者との密なコミュニケーションを取っている。<br>児童の安全面を一番考えた送迎を心掛けている。                  | 楽しく生活出来るように見守りや手助けを行っている。<br>学校休業日の活動は、お出かけや食育で充実するように心がけている。<br>置き去り防止装置等の活用や忘れ物確認。<br>保護者から収集した情報を基に具体的な目標設定をしている。 | 児童の興味嗜好を定期的に聞き取っていく。<br>繰り返し検証を行う事で、より良い支援方法を検討していく。 |
| 3 | 実践的な食育活動を行っており、その子に合った作業工程にチャレンジすることで、個々の支援を充実させることが出来ている。<br>清潔な環境を心掛け、衛生管理を徹底している。                 | 感染症が蔓延しないように、マスクや手洗い等を利用児童の特性に合わせてイラストや文字の色を工夫して掲示している。<br>個々の得意な事を生かした作業工程を提供することで、最後まで楽しく参加出来るように配慮している。           | 公共交通機関を使って戸外活動を行う。<br>廃材を使った工作を取り入れていく。              |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること   | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|--|---|---|
| 1 | 職員によって児童に対する対応にバラつきがある。<br>利用児童同士のトラブルが同じ曜日に起こることがある。                                      | 利用児童についての情報共有が、職員間で十分になされていない。<br>トラブルが起こりやすい児童同士の利用曜日が被ることが多い。         | ミーティングの時間を活用し、職員間で情報共有を密に行ない、個々の児童に合った対応のパターンを決めて実行する。<br>職員を点で配置し、トラブルを未然に防ぐ。      |
| 2 | 利用児童の人数によって、集団活動の際に、狭く感じることもある。<br>建物構造や設備面により、運動と座位での遊びのスペースが十分に取れていない。                   | 利用児童の人数によって、集団活動の際に、狭く感じることもある。<br>建物の構造が二階にあり、すぐに改善するのが難しい。            | 限られたスペースの中で、マット等で有効的に使用して仕切り、活動を行う。<br>安全面に配慮しながら活動内容を工夫していく。                       |
| 3 | 利用児童の自立に繋がるよう活動などをもう少し取り入れる必要がある。<br>事故等が発生したときに、事業所から速やかな連絡や事故が発生した時の状況の説明にタイムラグがあることがある。 | 職員の人員配置や状況による。<br>事故等が発生したときに、事業所から速やかな連絡や事故が発生した時の状況の説明にタイムラグがあることがある。 | 職員間で話し合い、児童の特性や職員の教育を拡充し、児童に合った支援を工夫する必要がある。<br>日頃起こりうる状況に対して職員間で確認し、未然に防げるようにしていく。 |